林野四国

発行所
高知市丸の内
一丁目３の30
全国林野関連労働組合
四国地方本部
TEL821－2238
発行責任者
平松龍之典

新採労働学校特集号

当面の日程

2024 ／ ２ ／ 23
第19回定期地本委員会（高知市）
2024 ／ ２ ／ 29
全国組織財政確立委員会・全国書記長会議（東京都）
2024 ／ ３ ／ １
森林労連全国代表者会議（東京都）

窓口メモ

◇２０２４年度の新規採用及び選考採用について（１／18）
◇２０２３年度10月期及び１月期の遡及昇格について（１／25）
◇２０２４年度暫定再任用予定者への条件提示等について（１／25）
◇２０２４年度定年前再任用短時間勤務希望者への条件提示について（１／25）

２０２３年度新採労働学校

全国の仲間と学習し交流を深める
林野労組の運動にまなぶ

昨年の11月17日から19日の３日間にかけて、東京都において中央本部主催の「２０２３年新規採用者労働学校」が開催され、全国から新入組合員を含めた84人が結集しました。四国地本からは引率者１人を含め10人が参加し、各地本の仲間達と交流を深めました。

２０２３年度新採労働学校全体参加者（国会議事堂前）

【中村通信員・地本青女】

新採労働学校では労働組合の任務と役割、労働運動、青年女性委員会が果たすべき目的、国有林事業の変遷等について学ぶことができました。また、交流会等を通じて全国の仲間とも親睦を深めることができました。

１日目は参議院議員会館内において開校式を行った後、国会議事堂を見学しました。中央広間、本会議場、前庭などの各所を案内のもと見学し、「昭和初頭に完成し、ほとんどのものが建設当時から残っている」といった説明から歴史の重みを感じつつ、長年にわたり国政の中心となってきた場所の空気を肌で感じることができました。

その後、林野会館にて全体交流会が開催され、全国の仲間と親睦を深めました。

２日目は、午前に講義の聴講や分散会、午後に社会見学を行いました。まず、立命館大学産業社会学部の富永准教授から「安心できる職場づくりのための労働組合」をテーマに、「ネガティブなイメージを持たれることもある社会運動だが、現代社会は個人主義化が進んだことで、悩みを他者と共有することの難易度が上がり、悩みを解決するための難易度が上がっている。そのような状況において社会運動は『困っている』を個々人が発言し、その苦しみや痛みを『社会のせい』にするために必要で、そのためには継続的に従事できる『疲れない運動』をしていく必要がある」との講義を受けました。

また、林野労組中央本部鳴川書記長から「国有林野事業の歴史と取り巻く状況について」と題して、林野労組全体の歴史と現在の職場で直面している課題について学びました。

その後、分散会では職場環境や生活実態について他地本と情報交換行い、悩みや問題の解決に向けて討論しました。

午後の社会見学では、浅草の町並みや花屋敷、東京スカイツリーといった各々興味のある場所へ行き見聞を広めました。

３日目は、森林労連共済推進本部の千葉様から組合員の相互扶助や団結を目的に立ち上げられたという森林労連共済の成り立ちや、共済事業の意義、取り扱うサービス等について説明いただいた後、中央労働金庫の木村様から、社会人となり利用機会が増えるキャッシュレス決済やクレジットカードでの支払いについて、多重債務をはじめとしたマネートラブルのリスクと対策について解説いただき、社会人としての基本的な知識について学びました。

閉校式では、各地本の参加者を代表して関東地本の会津さんが感想を述べ、最後に青年女性委員長の団結ガンバローをもって閉校となりました。

中央本部鳴川書記長より講義を受ける

新採労働学校に参加しての感想

国会議事堂見学

薗畠　敏弘（徳島）
ソノバタ　トシヒロ

労働学校へ参加した仲間からの感想をいただきましたので掲載いたします。

国会議事堂の見学等、こうした機会でないと中々伺うことのない場を知ることができる貴重な経験となった。また、各地に散らばる同期との顔合わせが入庁後初となる機会であったため、自身の所属する局以外の雰囲気を知ることや、小規模のグループに分かれて各々の現状について情報交換ができたのは自身の置かれている環境について客観視できる良い機会となった。組合に関連する話をいくつか伺って改めて組合の意義を再確認できたが、同時に組合の振る舞いと若年層から求められていることとの乖離も多少なりとも感じたので、今後そうしたギャップが埋まっていけばと思う。

今回の新規採用者労働学校を通じて、労働組合そのものの理解が深まったり、労働組合が私達の生活に身近であるということを今まで以上に強く感じました。また、他の分会の方とも交流する中で、他の地域の職場の様子など、様々なことを聞くことができ、大変貴重な体験でした。今後、日々の生活でも今回感じたことや学んだことを活かして、林野労組に貢献していきたいと考えます。

裏面へ・・・

▲写真：分散会の風景

このは

1月1日に発生した能登半島地震から1ヶ月以上経過したが、まだ被災者の生活は戻っておらず、復興には時間がかかりそうだ▼そんな災害大国の日本で、改めて防災の重要性が浮かび上がってきた。だが24年度の国の予算は、防災関連予算として23年は約1兆6千億円と、22年度の半分程度まで落ち込み、ピークは阪神淡路大震災直後の7兆5千億円と比べると、減少が顕著となっている。この予算は4項目に分類され、減災の調査を指す「科学技術の研究」建物の耐震化や教育を指す「災害予防」治水や治山事業の「国土保全」被災者の生活再建支援や災害復旧事業を含む「防災復旧等」となっている▼一方、24年度当初予算7兆9千億円と過去最大を記録したのが防衛費。11年連続で増加し、重点的に増額された分野は、装備品の維持整備や弾薬の取得、装備品の研究開発となっている。また、政府は武器輸出ルールを定めた「防衛装備移転三原則」を改定し、軍事品の輸出を緩和した。防衛費の拡大など、国は「防衛、防衛のため」と言っているが本心は何なのだろうか▼まずは国民の生命を守るために災害に備え、災害に強いまちづくりをするべきではないだろうか。そうすれば長期に及ぶ、避難生活で苦しむ人々を少なくできるかもしれない。（のり）

２０２３年度
新採労働学校

組合は労働者の権利を守る
仲間と集まり話し合い行動し解決へ

河野 橘平（愛媛）
コウノ キッペイ

今回の新規採用者労働学校を通じて、労働組合そのものの理解が深まり、労働組合が私達の生活に身近であるということを今まで以上に強く感じることができました。

また、全国の分会の方とも交流する中で、他の地域の職場の様子など、様々なことを聞くことができ、大変参考になる貴重な体験でした。

今後は、日々の生活でも今回感じたことや学んだことを活かして、林野労組に貢献していきたいと考えます。

四国地本から参加した2023年度新入組合員の仲間

日野 壮一郎（愛媛）
ヒノ ソウイチロウ

新採学校でさまざまな事を詳しく学べました。とても有意義なものとなり、これから絶対に役に立つ事なので、早い段階で学べてよかったです。

また、公務員としての自覚を持てる機会でもありました。やはり時間とともにそういうものは薄れていきそうですが、この機会に取り戻せてよかったです。

２月には東京で新採研修があるので、この新採学校で学んだ事を活かしていきたいと思います。

今集会では、先輩達のことも知れ、同期の人達とも交流できとても有意義なものとなりました。

山内 爽平（四万十）
ヤマウチ ソウヘイ

新採労校では、普段会うことのない全国の仲間たちと交流することができました。職場の環境や、従事している仕事内容など、様々な意見交換をすることができました。

全国の仲間の意見を聞き、現在置かれている状況を客観的に見ることができたため、参加して良かったと感じています。

また、お金の講義に関しても、ためになったと感じています。自分ではなかなかお金について、勉強する時間や余裕が無い中で、そういったことを教えていただけ、有り難かったです。

多賀 翔映（四万十）
タガ ショウエイ

今回の新採労働学校を通して、普段見に行けないような参議院会館や国会議事堂に入ることができ、貴重な経験ができてよかったです。飲み会等を通して他の分会の方とも交流できて、また、東京も観光でき非常によかったです。

２年目、３年目にかかわらず、こういう機会を設けてほしいです。今回の貴重な経験を業務やプライベートなどでも活かしていけるようにしていきたいです。

小原 英明（大栃）
オハラ ヒデアキ

１日目に国会を見学ができると聞き、とても楽しみにしていました。実際に訪れてみると、外見はそれほど広く見えませんでしたが、中はとても広く、警備ももの凄く、とても迫力がありました。

３日目には、全国の同期の方達と意見交換をした際には、自分の悩みを発表してみると、同じ悩みを持つ方が他にいたり、同期の方達は一緒に解決策を考え出してくれて、とても気が楽になりました。

充実した３日間を過ごすことができ、とても嬉しかったです。

写真左：労働学校の風景

村上 烈士（安芸）
ムラカミ レッシ

労働学校では、他局の方との交流を深めることができたことが大変良かったと感じています。

また、私は職場の状況や働き方などについて四国内のわずかな部分だけしか知りませんでしたが、分散会や交流会を通して、全国各地の仕事上での声や悩みを聞き、各局の方々も同じような疑問や悩みを抱えているのだと知り安心できました。

さらに、自分の局では経験できないような各局特有の苦労話など、いろんな話を聞くことができ楽しかったです。

小林 風雅（安芸）
コバヤシ フウガ

今回の労働学校では、今までなんとなくでしか分からなかった組合の意義を知ることができ、組合は労働者の権利を守るために必要であると実感できました。

今の労働環境があるのは、労働組合の先人たちのおかげであることに感謝をしながら、これからの組合活動を私のできる範囲で頑張っていきたいと思います。

また、労働学校のおかげで全国の同期たちと親睦を深めることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。

全国にいる同期の話を聞く中で場所によっては、ブラックと言わざるを得ないような労働環境で働いている人もおり、このような労働環境がある限り労働組合は必要であると思いました。

猪野 このみ（局）
イノ コノミ

全国の仲間と交流する今回の活動で、特に印象に残ったことは、自分と同じ業務担当の方とお話しできたことです。

四国の同期では、土木担当がいなかったので用語やシステムについて相談したり、署ではどんな仕事を行っているのか聞くことが出来なかったのですが、他局で同じ担当を行っている方とお話しする中で、悩みを相談できました。

さらに悩みだけではなく、担当業務の楽しさについても、共有し合える相手と話せたことがとても良い経験となりました。

本部交渉

２０２４年度新規採用者の確保に向けて
将来要員規模に係る労使合意を守らせる

２０２４年度新規採用については、将来要員規模確保に係る労使交渉経過に基づき、新規採用の拡大に向けた本部交渉が行われてきました。

本部交渉の結果、最終的に総合職16人を含め全体で１５０人（昨年１４６人）とすることで本部整理が図られました。

具体の配置については、総合職16人を本庁に配置、一般職大卒程度94人及び一般職高卒程度40人を局に配置することで整理が図られています。

四国局への配分については、一般職大卒程度６人及び一般職高卒程度５人の11人（２０２３年度から１人増）となりました。

地本は、局当局から新規採用者数について説明を受けた際、①林野庁全体の新規採用者数の増大と局別配分の見直しによる四国局採用者数の拡大、②空席となっているポストの負担軽減に向けた非常勤職員の雇用などによる具体的な対応を図ることを求めており、引き続き要員確保に向けた取り組みを強化していくこととしています。

また、２０２４年度の選考採用については、２０２４年度新規採用者とは別枠で、２０２３年度から１人増の５人を採用することとなっています。

新規採用者については、国家公務員の人件費抑制攻撃がある中であっても、この間の本部交渉、国会対策などの取り組みによって新規採用者の拡大が図られてきており、地本としても引き続き本部と連携した取り組みを進めていくこととします。

新規採用者数の推移（2018年度以降）

林野庁全体	総合職	一般職 大卒程度	一般職 高卒程度	選考採用	合計
2018年度	14	67	33		114
2019年度	14	70	30		114
2020年度	14	79	36		129
2021年度	14	82	48		144
2022年度	16	87	42		145
2023年度	16	86	41	24	167
2024年度	16	94	40	38	188

四国局 採用者数	総合職	一般職 大卒程度	一般職 高卒程度	選考採用	合計
2018年度	－	4	2		6
2019年度	－	4	2		6
2020年度	－	5	2		7
2021年度	－	5	3		8
2022年度	－	6	4		10
2023年度	－	6	4	4	14
2024年度	－	6	5	5	16